

広島県

株式会社広島情報シンフォニー

2018年6月26日(火) 中国新聞 朝刊掲載

重度障害者の自立を支援

多様な人材が能力を発揮できる環境に

障害者の在宅雇用きっかけに導入

当社は広島県、広島市、民間企業の共同出資による重度障害者多数雇用モデル企業として1988年に設立されました。障害者と健常者が協働しながら、ソフトウェア開発などに取り組んでいます。テレワークは92年に導入。通勤が難しい障害者に、社会参加できる機会を提供したいとの思いから、株式会社として、全国で初めて障害者の在宅雇用を実施するのがきっかけでした。現在、社員177人のうち障害者は42人で、そのうち11人が自宅で働いています。

社と自宅をオンラインでつなぎ業務推進

当社のテレワークは、視聴覚障害者向け放送用字幕の制作が中心です。在京民放キー局や地方局などが制作する番組の出演者のせりふやナレーションを、文字にして画面に表示する仕事です。オフィスにいる健常者の社員と在宅の障害者の社員がオンラインによる分業で字幕を入力します。朝夕にはインターネット電話「スカイプ」を使ってテレビ会議を開き、進捗（しんちやく）状況や予定の確認をして業務を円滑に進めています。障害の有無にかかわらず、多様な人材が能力を発揮できる環境づくりにテレワークは欠かせません。今後も積極的に活用したいですね。



広島情報シンフォニー
代表取締役社長 井野浩治さん

字幕制作で「生きがい」を見つけました

テレワークは働くための唯一の手段

18歳だった2003年、レスリングの練習中に頸椎（けいつい）を損傷し、両手足の機能を失いました。「体が不自由でも、働きたい」と3年前から在宅テレワークによる字幕制作に携わっています。番組の音声を聞き取りながら、口にくわえた細長い棒でパソコンのキーボードやマウスを叩いて操作し、文字入力。通勤が難しい私には、テレワークは働くための唯一の手段といえます。体調と相談しながら無理なく働ける点にも感謝しています。



Si サービス事業部
アウトソーシング部
谷本弘蔵さん

安定収入を得て一人暮らしも実現

字幕制作は音声を文字にするだけでなく、文字の位置や色にも工夫が必要です。所属部署には私と同じように在宅で働く障害者が10人いるので、困った時はすぐにスカイプで皆に連絡します。互いに障害者としてのつらさを理解した上で、仕事に関しては遠慮なく、改善点を指摘し合います。仲間と支え合い、切磋琢磨（せつさたくま）できる喜びを実感しています。テレワークを通じて得たのは生きがいです。安定した収入も得ることができ、2年前からは実家の近くで1人暮らしも始めました。情報通信技術が進化する今後は、テレワークでますます活躍の場が広がりそうです。